

2015

11.26

東京成徳広報



第二代理事長
菅澤重義 先生



初代理事長
菅澤重雄 先生



第三代理事長
木内四郎兵衛 先生

学園創立 90 年特別号



学校法人 東京成徳学園

表紙

●初代理事長 菅澤重雄先生（写真：中央）

明治2年（1870）－昭和31年（1956）

千葉県多古町に生まれる。^{めいれいじゅうく なみきりすい}螟蛉塾の並木栗水の下、漢学（朱子学）を学ぶ。27歳にして千葉県会議員となり、後に衆議院議員、貴族院議員となり国政に参画する。また、開墾事業や銀行業、鉄道業などを興し実業家として活躍した。

大正15年に王子高等女学校を設立し、昭和6年には東京成徳高等女学校への校名変更して以後、校長として子女の教育にあたった。法人設立後、初代理事長に就任。

胸像は、東京成徳大学中学校・高等学校中高一貫部校舎に設置。

●第2代理事長 菅澤重義先生（写真：左）

明治28年（1895）－昭和50年（1975）

初代理事長菅澤重雄先生の長男として千葉県多古町に生まれる。尋常小学校教員、教育委員長、千葉県会議員、千葉県人事委員会委員長などを務める。

昭和6年の父重雄先生の校長就任とともに学園の経営に参画し、物心両面で学園を支えた。昭和31年に2代目理事長に就任し、深谷高校開校及び短期大学開学の学園拡大に尽力した。

胸像は、東京成徳大学十条台キャンパスに設置。

●第3代理事長 木内四郎兵衛先生（写真：右）

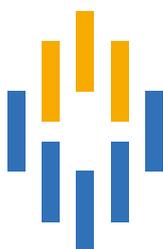
大正5年（1916）－平成18年（2006）

千葉県香取市に生まれる。東亜研究所や召集後の陸軍において主に自然地理分野の調査に従事した。重義先生の長女と結婚していた縁もあり、戦後東京成徳学園の経営に参画。重雄先生の下、副校長として東京成徳の教育の発展に陣頭指揮を執った、先生亡き後は校長そして第3代理事長に就任し、平成5年の大学開学及びその後の高等教育充実に至る現在の東京成徳学園の道筋をつける。

写真の胸像は、東京成徳大学深谷中学校・高等学校に設置。ほか東京成徳大学高等学校（高等部）にも設置。

C O N T E N T S

- P 4 **東京成徳学園の不易と流行**
学園長 木内 秀俊
-
- P 5 **創立 90 年を迎えて**
理事長 木内 秀樹
-
- P 6 **東京成徳学園 90 年の軌跡**
-
- P 9 **東京成徳大学**
-
- P 14 **東京成徳短期大学**
-
- P 16 **東京成徳大学中学校・高等学校**
-
- P 20 **東京成徳大学深谷中学校・高等学校**
-
- P 24 **東京成徳短期大学附属幼稚園**
-
- P 26 **東京成徳短期大学附属第二幼稚園**
-



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇気」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。



「学問の木」と知られる「楷の木」
かい



東京成徳学園の不易と流行

学園長 木内 秀俊

勢として不易の部分であると思われ
ます。
また昭和6年には学園の建学の
精神である「成徳」を学園・学校名
に入れていきます。この建学の精神
「成徳」は学園創立によってどの様
な人材を育成するかの目的を示す
ものです。これが学園の不易の核心
であることを明示する為に学校名
にも入れ、その後設置された各学校
名にもそれは引き継がれています。
昭和20年の敗戦により戦前の社
会体制は、主権在民・民主主義の体
制に変わり、教育内容もそれに応じ
て変化していきました。高等女学校
は新制中学と高等学校に分離され
新体制に沿って教育や生徒活動が
活発に行われました。学園の中学部
門は新制中学が義務教育とされ、授
業料負担のない公立校の整備が進
んだ結果急速に縮小を余儀なくさ
れました。戦後の学制改革や教育改
革は民主主義の基礎となる教育対
象者の拡大・高度化をもたらしたの
です。学園はこれらに対応して拡
充・発展するとともに、例えば式典
における国旗掲揚・国歌斉唱を始め
として日本人としての意識やアイ
デンティティを失わないように努
めています。

昭和28年の幼稚園、昭和38年の深
谷高等学校の設置は、学園拡大のス
タートとして位置づけられます。
そして、第一次ベビーブームに際
して社会ニーズに応じて短期大学
を設置しました。この高等教育への
進出はその後の大学設置に繋がる
ものでありますが、国の第一次ベ
ビーブーム後の大学設置抑制方針
により平成5年の東京成徳大学の
設置に至るまで長い時が流れまし
た。大学設置は学園全体にとつても
大きな変化をもたらしました。すな
わち大学が共学でスタートし、その
後学園の各校も順次共学化したこ
とです。女子教育を担って70年ほど
を経た学園の社会的なニーズに応
えての教育分野・対象者の転換の時
でした。

平成27年に創立90年を迎えた東
京成徳学園は、100年に向かって歩み
出しつつあります。大正末年に王子
高等女学校として発足して今や人
間でいえばほぼ3世代にあたる時
間が過ぎました。この間に時代・社
会が大きく変化しましたが、学園は

さて教育の分野ではよく「不易流
行」との言葉が語られます。「不易」
は時代・環境によって変わらな
いもの・本質的なものであり、「流行」
はその時代・環境に合わせて変わる
べきものであり、対をなして存在し
ます。

その変化に対応して創設時の高等
女学校の流れを継いだ高等学校・中
学校の中等教育部門に加えて、現在
大学院・大学・短期大学の高等教育

この90年間を振り返り学園の不
易と流行とは何であったかを考え
てみたいと思います。

部門と幼稚園の幼児教育部門を有
する総合学園に拡大・発展を遂げて
きました。

学園が創立された大正末期は、日
本の社会・経済が発展し大正デモク
ラシーに見られるような国民意識
の変化に伴って、教育の高度化・拡
張が必要性を高めて行く時期にあ
りました。創立者菅澤重雄先生はこ
の社会の教育ニーズの中で今後我
が国が一層発展を遂げるには当時
相対的に遅れていた女子教育の充
実が特に必要との信念から高等女
学校を開校させたのでした。

学園の歴史の中で特記すべき事
は、

この社会の教育ニーズに積極的
に応えることは、学園の基本的な姿

① 建学の精神を校名に入れたこと

② 戦後の教育改革・学制改革と新制

③ 幼稚園・深谷高等学校の設置

④ 高等教育への展開

⑤ 男女共学化

⑥ 男女共学化

などが上げられます。

最後にこの学園に関係するすべ
ての人々が学園を愛して支援して
くれたという不易の基礎があった
結果と思います。創立90年にあたり
全ての関係者に深く感謝し、創立100
年に向けての充実・発展を図って行
きたいと思えます。



創立90年を迎えて

理事長 木内 秀樹

東京成徳学園は本年創立90年を迎えました。

創立90年周年を迎えるにあたり、これ迄のように内外のお世話になつた方々にご臨席をいただき周年行事をせず、創立90周年事業の目玉として、この節目に「東京成徳ビジョン100」という創立100年に向けた学園将来ビジョンを策定することとしました。

これからの10年間は、中等教育や高等教育では大きな教育改革が実施される予定です。こういう変革期こそ流されることなく学園として明確なビジョン・戦略を構築し、それを教職員が共有することによって成果が得られると考えています。

2年前から学園のビジョン、各校の目標・戦略を各校とも協議の上、策定してきましたが、その間多くの方々からご意見をいただいたことに感謝いたします。配布されるパン

フレットと併せて各校の具体的な取組みを盛り込んだ計画書をもとに毎年検証し、更に見直しをすることによって「東京成徳ビジョン100」の価値を高めることができます。つまりこのビジョンは、創立100年に向けての指針であり、これから始まる各校における改革の出発点ともなるわけです。

「成徳」の精神を持つグローバル人材の育成に向けて全学が力を合わせて取り組むことをお約束します。

創立者の菅澤重雄先生は衆議院議員、貴族院議員として国政に参与する一方、明治末から大正にかけて3つの銀行を設立、渋谷急行電気鉄道（現・井の頭線）を設立して社長に就任、千葉県の開墾事業に取り組みするなど実業家として多彩な活躍をされた方です。教育については「国家の興隆は終局にあつて教育であり、特に女子教育のレベルを高めな

ければありえない」とし、「徳育が教育の『かなめ』でなければならぬ」という信念を持っていました。本学園の建学の精神「成徳」は「徳を成す」ことであり、創立者の学問的素養である漢学によるものです。

これまでの学園の発展の歴史を振り返ると第1段階は初代理事長重雄先生、2代目重義先生の下における大正15年の創立から戦後の学制改革時までが「自立・継続」をテーマとし、第2段階は3代目理事長木内四郎兵衛先生の下で戦後から学園創立70周年に至るまでの「発展・拡大」をテーマとした時代といえます。この時期に於いては、中学・高校の定員増、幼稚園と深谷高校の設置、短期大学・四年制大学の開学など学園は総合学園化に向けて急速に発展しました。そして、創立70

年以降、第3段階として中等教育部門の共学化、中高一貫体制確立、短期大学・大学の学科再編と子ども学部の新設、十条台キャンパスの拡充・整備など教育内容の充実に取り組み、現在に至っています。

創立80周年以降は、大学に応用心

理学部、経営学部が設置され学ぶ分野の多様化が図られました。更に平成28年度には臨床心理学科及び大学院が十条台キャンパスに移転し、校舎の新築もなされたキャンパスの更なる発展が見込まれます。

また、豊島の中高一貫部校舎と十条台の大学校舎は過去に北区景観賞を受賞し地域のランドマークとして認められるとともに、平成27年3月には学園と北区は「連携協力に関する包括協定」を締結し、地域の発展のために今後更に協力していくこととなりました。

これからの先行き不透明な変化の激しい時代にあつて、学園には社会の要請をより正しく把握し積極的に変化に対応する姿勢が求められています。したがって、第4段階は総合学園としての利点を活かしながら、大胆に新しい考え方を取り入れ改革に臨んでいかなければならないと考えています。

最後になりましたが、これ迄お世話になった皆様へ深く感謝し、これからもご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京成徳学園 90 年の軌跡



大山へ遠足 中央は菅澤重雄校長



高等女学校の木造校舎（昭和 2 年）



中高一貫部校舎（平成 9 年）



創立 40 周年式典 短期大学開学式典（昭和 40 年）

東京成徳学園の創立

大正 15 年 4 月東京成徳学園の前身である王子高等女学校が設置されました。そして、昭和 6 年に校名を「東京成徳高等女学校」に改めました。創立者菅澤重雄先生は「国家の興隆は終局にあつて教育であり、特に女子教育のレベルを高めなければならぬ」とし、「徳育が教育の「かなめ」でなければならぬ」という思いを持ち、当初は校主でしたが、昭和 6 年自らが校長に就任され、本学園の建学の精神「成徳」「徳を成す」とし、「有徳有為の人間の育成」が始まったのです。

しかし、昭和 19 年には戦時の勤労動員のため授業は全くなくなりました。昭和 20 年 8 月 15 日、生徒たちは講堂で玉音放送を聞き、終戦を知ったのです。そして 9 月 4 日から授業が再開されました。

苦難の復興

学校の施設も荒廃、深刻な食糧難の中で菅澤重雄先生は学校復興の指揮を執られていましたが、思わしくない学校経営を物心両面で支え続けたのが、当時財団法人東京成徳学園の理事をされていたご子息の

菅澤重義先生（のちの 2 代目理事長）でした。

昭和 21 年 4 月に、重義先生の女婿である木内四郎兵衛先生が副校長として着任され、昭和 23 年からは全面的に学校の責任者として運営されることになりました。

昭和 22 年に教育基本法・学校教育法が公布され、学制改革により、東京成徳中学校、翌年には東京成徳高等女学校が誕生しました。私立学校法の施行に伴い昭和 26 年 2 月学校法人東京成徳学園に組織変更されました。

5 つの教育目標

木内副校長は創立者重雄先生と起居を共にされ、その日常から創立の経緯や「建学の精神」について教えられていたので、学園の教育目標を次の 5 つに集約して表現されました。

- ① おおらかな徳操
- ② 高い知性
- ③ 健全なる身体
- ④ 勤労の精神
- ⑤ 実行の勇氣

その思いは、シンボルマークのブルーの 5 本の柱に象徴されており今日にも弛まずに継承されています。

年	主な出来事
大正 15 年	●王子高等女学校（4 年制）を設立
昭和 6 年	●東京成徳高等女学校に改称 ●菅澤重雄校主、女学校校長を兼務
昭和 16 年	●財団法人東京成徳学園を設立 菅澤重雄校主が理事長に就任
昭和 21 年	●学園創立 20 周年記念式典
昭和 22 年	●学制改革により東京成徳中学校（現東京成徳大学中学校）開校
昭和 23 年	●学制改革により東京成徳高等学校（現東京成徳大学高等学校）開校
昭和 26 年	●学校法人東京成徳学園に組織変更 菅澤重雄理事長
昭和 28 年	●東京成徳幼稚園（現東京成徳短期大学附属幼稚園）開園
昭和 31 年	●菅澤重義常務理事が第 2 代理事長に就任
昭和 38 年	●東京成徳学園深谷高等学校（現東京成徳大学深谷高等学校）開校
昭和 40 年	●東京成徳短期大学（文科）開学
昭和 41 年	●東京成徳短期大学に幼児教育科を設置 ●学園創立 40 周年式典
昭和 50 年	●木内四郎兵衛常務理事が第 3 代理事長に就任 ●学園創立 50 周年式典
昭和 51 年	●東京成徳短期大学附属第二幼稚園開園
昭和 60 年	●学園創立 60 周年記念式典
平成 5 年	●東京成徳大学（人文学部）開学
平成 7 年	●学園創立 70 周年感謝の会
平成 10 年	●東京成徳大学大学院開設 ●校舎を建替え男女共学の中高一貫教育の開始
平成 13 年	●東京成徳短期大学にビジネス心理科を設置
平成 16 年	●東京成徳大学に子ども学部を設置
平成 17 年	●学園創立 80 周年記念式典 ●木内秀俊副理事長が第 4 代理事長就任
平成 18 年	●木内四郎兵衛記念教育研究充実基金の発足
平成 20 年	●東京成徳大学に応用心理学部を設置
平成 21 年	●東京成徳大学に経営学部を設置 ●「平成 21 年度～ 25 年度中期事業計画」策定
平成 22 年	●東京成徳短期大学ビジネス心理科を廃止
平成 25 年	●木内秀樹副理事長が第 5 代理事長に就任 ●木内秀俊理事長が学園長に就任 ●東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科を廃止 ●東京成徳大学深谷中学校を開校
平成 26 年	●「平成 26 ～ 28 年度中期事業計画」を策定
平成 27 年	●北区と連携協力に関する包括協定書の締結 ●「東京成徳ビジョン 100」発表

学園の充実と発展への諸施策

木内四郎兵衛先生は昭和 28 年に幼稚園を開園し、昭和 31 年に東京成徳中・高校の校長に就任され、教育の質を高めるために学園が開発してきた教育機器・学習プログラムを駆使して成果をあげ、教育界に多大の貢献をされています。昭和 38 年には埼玉県深谷市に東京成徳学園深谷高校が開校、昭和 40 年には北区十条台に東京成徳短期大学が開学しました。これにより、学園は中等教育の分野から高等教育の分野まで幅広く、理想とする総合学園を目指して前進したのです。

創立 50 周年 新たな出発

昭和 50 年、学園創立 50 周年の記念すべき年に戦後から学園を強力に牽引されてきた木内四郎兵衛先生が第 3 代理事長に就任されました。学園創立 50 周年記念誌に木内理事長は「わが学園の今日と明日の教育」と題し寄稿。東京成徳の教育の根本は「反始報本」始めにかえって本に報ゆる」と学園の基本方針を明記されています。

木内理事長は周年行事ごとに 10



大学開学式木内学長挨拶（平成5年）

年の総合計画で学園の目標を示され、それを達成することによって学園を導いてこられました。

平成2年4月には木内四郎兵衛校長から、高等学校は菅澤喜八郎先生、中学校は木内秀樹先生が校長を引き継がれました。

木内理事長は70周年記念事業として4年制大学の設置構想を記され、平成5年に千葉県八千代市に男女共学の東京成徳大学が開学、自ら初代学長に就任され、東京成徳短期大学は木内秀樹先生が学長に就任されました。

4年制大学開学は、学園の女子教育から共学への先鞭をつけ、総合学園として大きく翔たく契機となったのです。

高等教育部門の充実・拡大

平成17年9月、第4代理事長に就任された木内秀樹先生は、学園を取り巻く環境変化に対し、「不易流行」の考え方で臨まれました。

即ち、建学の精神を現代に即して解釈し、その教育面での実体化を図るといったことが「不易」の部分であり、教育分野、教育手段などについて柔軟に変化に対応し、取り入れていくことが「流行」の部分であるという考えです。

学園の総合力を結集すべく、幼稚園から大学院までの幹部が集う「部門合同会議」を平成17年から開催され、また中期事業計画を策定し、学園の教育力向上と財務体質強化を推進されました。

特に、学長を兼務されている大学を中心に、高等教育部門の充実・拡大に注力されました。

新学部として応用心理学部を設置し、これまで人文学部にあった福

祉心理学科と臨床心理学科をその傘下とし、平成21年には健康・スポーツ心理学科を増設しました。同年、十条台キャンパスに「有徳有為」

な「社会的偏差値」を持った人材を育成する経営学部をスタートさせました。平成22年には人文学部に観光化学科を新設し、一方では短期大学の改組整備を実施されました。

こうした高等教育部門改革の結果、平成5年八千代キャンパスに大学を開学した当時は1学部3学科でしたが、現在は十条台キャンパスと合わせて大学院心理学研究科・4学部8学科の規模に拡大しました。

現在義務化されている文部科学大臣が認証した認証評価機関による第三者評価を、平成19年と平成26年に短期大学、平成20年に大学が評価を受け、それぞれの認証評価機関より評価基準を満たしており、「適格」と認められました。

共学化の推進

学園は、創立以来女子教育に専念してきました。しかし平成5年の4年制大学開学を契機に、順次中学・高校・短期大学の共学化を推進して

きました。現在は各校が全て共学となっています。

第5代理事長に木内秀樹先生就任

木内秀樹理事長は平成25年3月をもって大学学長と短期大学学長を退任されました。大学の新学長には海保博之先生、短期大学は木内秀樹先生が学長として就任されました。また5月には木内秀樹理事長は学園長に、木内秀樹副理事長は理事長に就任されました。

この年、大学は創立20周年を迎え、11月に記念式典を開催、記念企画として公募した「イメーჯキヤラクター」「応援歌」「スローガン」の表彰を行いました。

創立100年に向けて

木内秀樹理事長は就任にあたり創立100年迄の課題を明示されました。各校が今後の目標を共有し、オール成徳のエネルギーのペクトルを束ねる役割として「東京成徳ビジョン100」が策定されました。

これからの10年、オール東京成徳の総合力でこの目標に向かって邁進します。

東京成徳大学

1110年間を体験ベースで振り返る

学長 海保 博之

平成18年4月から

(福祉心理学科長として)

筑波大学を63才で定年退職して、岡田明教授のお誘いで本学の福祉心理学科に着任いたしました。

実は、これよりもずっと以前、平成5年に福祉心理学科が開設されてしばらくした頃だったと思いますが、高野清純先生からの依頼で、心理統計の非常勤で2、3年間、筑波大学から通いの講義をさせていただいたことがあります。そんなこともご縁での就任だったかもしれません。

福祉には無縁だったこともあり、当初は、授業には苦労しました。講義内容をどうするかは無論のこと、授業上の工夫、さらに教室での授業管理（私語、遅刻・欠席などへの対応）にも多大な精力を費やしました。これも3年目くらいからでしょうが、なんとか乗り切ることができるようになりました。学生のメンタリティがわかり共生できるようになりました。

平成21年4月より

(健康・スポーツ心理学科長として)

大学の企画調整会議の場で、木内秀俊理事長・学長から八千代キャンパスでの新学科構想のアイディアを出すようにとのご下命があり、当時、臨床心理学科長だった市村教授の知恵をお借りして、「健康・スポーツ心理学科」を提案させていただきました。その立ち上げをしました。

構想がまとまり、新学科立ち上げを文部科学省に説明しにきました。新学部・学科の設置基準がとて厳しくなった今にして思うとびっくりするのですが、わずか20分足らずの説明のみで学科設置の趣旨を理解していただいたのです。（無論、書類審査などの手続きはあります。）

教員の新規増なしでの発足でしたが、1年目から、バスケットボール部の監督でもある川北准教授のがんばりもあって定員50名を上回る学生を確保できてほっとしました。しかしです。学年進行が終わり、学科の次の発展を期して、保健体育

科の教員免許の申請に挑戦しました。スタッフも新規に2人ほど用意し万全の備えで文部科学省と数回の折衝をしましたが、あえなく敗退してしまいました。これは痛恨の極みでした。

平成25年4月より(学長として)

学長になる前の2年間は、副学長をしました。この2年間は、授業も10コマありで、かなりきついものがありました。

学長に就任して現在2年半。最初は、これが同じ大学か！というくらいに十条台キャンパスと八千代キャンパスあれこれの違いに戸惑いしましたが、順応力（あるがままに受け入れる力）は人一倍あるほうです。半年もすると慣れました。しかし、困ったことに直面しています。

学長就任とほぼ時を同じくしてスタートした、文科省の「私立大学等改革総合支援事業」という改革推進事業があります。多数の改革項目についてそれを実行しているかどうかを点数化する方式ですので、かなり厳しい対応を求められます。ここで項目のいたるところで、「全学的に」実施していますかが問われるのです。

キャンパス間の違いは、歴史と文化の違いの色合いもありますので、そこを無理して壊し横串をさすようなことが本学の真の改革になるとは思っていません。それでも補助金がらみの事業ですので、強がりばかり言っているわけにもいきませんので、横串ではなく、大きな風呂敷でつつむくらいの気持ちで今後、この事業に対応していきたいと思っています。

さらに、今年10月、認証評価機関「日本高等教育評価機構」の外部評価の認証（2度目、7年に一度）を終え、「東京成徳ビジョン100」に向けて「全学一丸となって」がんばることになります。（注）肩書は当時のもの。



創立20周年記念式典にて（平成25年）

年	主な出来事
平成 17 年	●木内秀俊学長就任
平成 18 年	●大学院で3名に初の博士号（心理学）を授与 ●人文学部で新カリキュラムスタート「キャリアデザイン」が開講 ●福祉心理学科 北欧・スウェーデンへ研修旅行開始 ●子ども学部アメリカ研修旅行（3年）、韓国研修旅行（1年）開始
平成 20 年	●國分康孝教授が副学長に就任 ●応用心理学部（福祉心理学科 臨床心理学科）設置 学部長に市村操一教授が就任 ●人文学部長に日山紀彦教授が就任 ●子ども学部6大学連携教育支援人材育成事業開始（文部科学省平成20年度戦略的大学連携支援事業）「こどもパートナー・サポーター」制度へ
平成 21 年	●経営学部経営学科設置 岡田康司学部長就任 ●応用心理学部健康・スポーツ心理学科設置 ●応用心理学部長に海保博之教授が就任 ●財団法人日本高等教育評価機構の認証評価で「適格」と認められる
平成 22 年	●八千代キャンパスの「TSU 就活力パワーアッププログラム」開始（文部科学省平成21年度大学教育・学生支援推進事業） ●大学・大学院・短期大学の初の合同入学式を挙行 ●人文学部観光文化学科設置 ●大学院心理学研究科長に新井邦二郎教授が就任 ●韓国梨花女子大学校と学術交流に関する協定書の締結 ●経営学部が北区と「東京都北区商店街にぎわい再生プロジェクト推進事業に関する協定書」を締結。先ず「梶原銀座商店」から調査し商店街再生のための支援を検討
平成 23 年	●國分康孝副学長が退任 学園学術顧問に就任 ●人文学部国際言語文化学科新入学生外特別授業を海外にて実施（香港・マカオ研修） ●子ども学部長に永井聖二教授が就任
平成 24 年	●韓国慶熙大学校と学術交流に関する協定書を締結 ●中国蘇州科学技術学院大学と学術交流に関する協定書を締結 ●子ども学部子ども学科に小学校教員の教職課程設置 ●八千代キャンパス「トリプル M プロジェクト」開始
平成 25 年	●大学本部を十条台キャンパスに移転 ●台湾開南大学及び米国テキサス大学タイラー校と学術交流に関する協定書を締結 ●入試・広報センター、就職支援センター、実習センターの設置 ●海保博之副学長が第3代学長に就任 ●応用心理学部長に吉田富士雄教授就任 ●八千代市教育委員会との相互協力に関する協定書を締結 ●開学20周年記念式典を挙行（応援歌「いざ行かん-東京成徳大学応援歌」・スローガン「T（共に）S（ステップ）U（アップ）！」・キャラクター「とっくん・せいちゃん」の表彰）
平成 26 年	●人文学部長に今仲昌宏教授が就任 ●盛岡大学と学術交流に関する協定書を締結 ●一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と大学・短期大学連携に係る協定書を締結
平成 27 年	●韓国嘉泉大学校との学術交流に関する協定書の締結 ●北区と連携協力に関する包括協定書の締結 ●十条台キャンパス新校舎落成式 ●八千代キャンパス「東京成徳大学サッカー・フィールド」完成

「つながる学び、
ひろがる未来。」

新理事長の構想

平成17年9月、第4代理事長・大
学学長に木内秀俊先生が就任され
ました。改正教育基本法も前年末に
国会で可決されており、急速に進む
グローバル化により教育は大きな
転換期を迎えようという、まさに時
代の潮目でありました。

八千代キャンパス・十条台キャン
パスを効率的に活用して、高等教育
部門を質量共に内容充実を図るよ
う対応していくとの方針が述べら
れました。

新分野の開拓と既存分野の再編

新学長就任時の平成17年の時点
では、八千代キャンパスは人文学部
が日本伝統文化学科、国際言語文化
学科、福祉心理学科及び臨床心理学
科で構成されており、十条台キャン
パスは子ども学部子ども学科とな
り、全学で2学部・5学科という体
制でした。この体制を拡大し、社会
のニーズに応える分野を順次充実
させていくという構想です。



北区の商店街調査（経営学部）



大学院・大学・短期大学初の合同入学式（平成22年）

応用心理学部の設置

人文学部から福祉心理学科及び臨床心理学科を分離して平成20年4月に応用心理学部を設置しました。

カウンセリングマインド・福祉マインドの応用を目指し、心の諸問題への対応スキルと援助スキルを修得し、社会に貢献する人材の育成を目指したのです。

さらに、もう一つの心理学分野を教育・研究する新学科「健康・スポーツ心理学」を平成21年4月に設置しました。本学科では、人の達成行動の促進を促す方向に力点を置き、「健康心理学」、「ポジティブ心理学」及び「スポーツ心理学」などを中心に学び、「スポーツボランティア」などの科目を設けました。

本学科で学んだ学生が企業人として、心のわかる指導者、明るく仲間をリードしていける人材として活躍できるよう育成することが目的です。

経営学部の設置

平成21年4月に経営学部経営学科を設置しました。新しい観点から新学部が目指したのは、「有徳有為」な、社会に真に役立つ「社会的偏差

値」をもった人材の育成です。

企業が求める「自立型人間」を育成して社会に送り出すことが目的です。これからの時代の企業人は実学の体得が必要です。カリキュラムは「実学」を重視し、自立した職業人としての必要な基礎能力の向上を目指しました。

また、経営学のほかに心理学をカリキュラムに入れるなど特色あるカリキュラムとしました。

1年生が参加する「ビジネスアイデア」コンテストや「懸賞論文」など様々な試みが実施されています。

平成22年に北区との間に「東京都北区商店街にぎわい再生プロジェクト推進事業に関する協定書」を締結。区内商店街についての共同研究を実施しました。学部では、今後も大学の所有している知的財産を活用した地域貢献を積極的に展開する予定です。平成25年にはファッションビジネスをカリキュラムに導入し、入学定員を増やしました。

子ども学部の充実強化

子ども問題の専門家の養成を目的し平成16年に新設された時は「子ども学部」の草分けの一つということもあり、好調にスタートしました。

当初より小学校教員免許取得の希望は多く、学部では玉川大学通信

学部との連携によって在学中に小学校教諭第二種免許状を取得できるプログラムを整備しました。しかし、平成24年に小学校教職課程を整備し小学校教諭1種免許状の取得が可能となりました。

平成22年より実施した「手作り絵本コンクール」は、一般の高校生と在学生から多数の応募がありました。この絵本コンクールをより一層充実させていくことは在学生の教育成果の発表と広報戦略として極めて有効だと考えています。

学部としては「確かな資質、力量」を身に着けた卒業生を世に送り出すことによって社会に貢献できることを願っています。

八千代キャンパスの新たな挑戦

平成18年には「キャリアデザイン」が開講。日本伝統文化学科は平成19年より「千葉の今を知る」道の駅を調査、道の駅が地域の産業の活性化に寄与していることを明らかにしました。

そして、平成22年に観光文化学科を設置、人文学部を3学科体制に再編しました。



スウェーデン研修旅行（福祉心理学科）



王子スクールカウンセラー研究会の活動（大学院）

平成24年から「トリプルMプロジェクト」がスタートしました。先生方が自らの専門知識に基づいて、あるいは研究とは別の得意技でゼミやサークルを立ち上げ、学生と共に学んで行こうというものです。わずか1カ月で20種類もの「MYゼミMYサークル」が立ち上がり、ブログも開設されました。

大学院心理学研究科

平成10年に開設、平成15年に博士後期課程が開設されました。平成18年3月、本大学院で初の博士（心理学）を3名に授与しました。

平成22年、石村助教（当時）（博士・臨床心理士）が日本心理学会優秀論文賞を受賞。平成23年8月、本学の石村助教・浅野助教・健康スポーツ心理学科の羽鳥助教は他大学の先生方と共にシドニーで開催された世界サイコセラピー会議においてポジティブ心理学に関する研究発表を行い、最優秀ポスター賞を受賞することができました。

また、臨床心理士資格認定試験では、常に高い合格率を誇り、併設されている心理・教育相談センターは、様々な心の問題について相談を受け、実績をあげています。

開かれた大学へ・積極的な情報発信

平成21年3月財団法人日本高等教育評価機構による第三者評価を受審し本学は「適格」であると認定されました。

平成20年、日本伝統文化学科ブログ「伝統文化★資料室」がスタートし、他の学科でもブログが始まり、ホームページ等の情報発信の充実が図られました。

平成23年から高等教育部門における教育情報をホームページに公表しています。これは学校教育法施行規則で義務化されたことによるものですが、情報の公開により、広く社会への説明責任を果たすと共に、受験生から選ばれる大学を目指して教育研究の質の向上に努めています。

活発な国際交流・研修旅行

本学では、世界に羽ばたく人材の育成として学術交流協定を多くの海外大学と締結し、留学や海外研修など学生の目的に応じたプログラムを用意しています。各学科は積極的に海外研修を企画し、毎年の定例行事として成果を挙げています。

国際言語文化学科では新入生研修旅行や短期留学など応用心理学

部では福祉先進国北欧・スウェーデンへ研修で訪れ、子ども学部ではアメリカ研修旅行において、現地の大学での研修と保育施設の見学などそれぞれの学部・学科が教育目的に適した海外研修を実施してきました。

積極的な進路支援

八千代キャンパスの「TSU就活力パワーアッププログラム」が、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推進事業の優れた就職支援プログラムとして選定されたことを皮切りに本学の就職支援はより一層充実されました。

幼稚園や保育所については学部の支援によって安定的に就職しており、小学校教員には玉川大学との連携プログラムや子ども学部の小学校教育課程を履修した学生が採用されるようになりました。

企業等への一般就職については東京商工会議所の加入などにより企業との結びつきを強め、平成25年に発足した就職支援センターが大学を横断的にし、学部と関連事務部門が連携して、学生の進路支援を行っています。



十条台キャンパス新校舎



クラブ・サークル活動（男子バスケットボール部）



八千代キャンパス



とつくん（イメージキャラクター）

教育環境の整備

十条台キャンパスでは、平成14年に新校舎を建築し、学生の増加に対応してきました。さらに平成25年に始まった再整備計画では築50年を過ぎた校舎を含め4棟を建替えました。キャンパスの機能向上と、なによりも学生にとって快適な居心地の良いキャンパスを目指して実施され、平成27年7月、すべての工事が完了し、落成式を迎えることができました。また、平成25年に大学の本部の所在地を八千代キャンパスから移転しました。

テルにおいて記念式典が挙行され、ご来賓・学生代表、教職員はじめ卒業生や教職員OBの皆さんが出席されました。学術顧問の國分康孝名誉教授による講演会が開催されました。式典の後、今回の記念企画として募集した「イメージキャラクター」「応援歌」「スローガン」の3部門の表彰が行われました。最優秀賞を受賞した作品「とつくん」はイメージキャラクターとして様々な機会に登場し、本学を盛り上げています。

八千代キャンパスでは、学生の皆さんがキャンパスライフを快適に過ごしてもらうために、ハードの充実に加え「学内活性化プロジェクト」や「学生のための図書館づくり」を通じ、学生の皆さんと共にキャンパスを作りあげていきます。平成27年7月にJFA認定対応人工芝を使用した本格的サッカー場「東京成徳大学サッカーフィールド（愛称ブルーウイング）」が完成しました。

平成26年、一般財団法人東京オリピック・パラリンピック競技大会組織委員会と協定を締結しました。また、平成25年の八千代市教育委員会との相互協力協定に続き、平成27年に北区と連携協力に関する包括協定を締結しました。主に大学への役割について期待されるものです。

東京成徳大学はこのような社会の期待に対し応えることができるよう、教育研究の一層の研鑽を積むことよってその役割を果たし、なによりも建学の精神のもと、学生の未来を広げる教育を続けていきます。

創立20周年

平成25年大学は創立20周年を迎えました。11月に千葉県浦安市のホ

東京成徳短期大学

幼児教育科の教育・研究の歩みと今後の展望

科長 安見 克夫

幼児教育科の目的と

3つのポリシー

学則第6条に、幼児教育科の人材養成の目的を左記のように定めています。「就学前の子どもの教育や保育についての専門教育と研究を行い、教育・保育実践力の向上と一人ひとりの個性を伸ばして、社会のニーズに応えられる資質の高い幼稚園教諭、及び保育士の養成を目的とする。」

学生がこの目的を達成し十分に成長できるよう願って、入学者受け入れから卒業までの学生に対する基本方針として、【3つのポリシー】を定めています。

I アドミッションポリシー

(入学者受け入れの方針)

幼児教育科は、子どもの心の理解を基本に幼児教育・保育の現場で活躍できる人材の要請を目指し、次のような人を求めています。

- 1 真摯な心を持ち、コミュニケーションを大切にする人
- 2 深い洞察と柔軟な考えを持ち、実

実践的・協働的に行動する人

3 学ぶ姿勢と意欲を持ち、創意工夫を重ね、何事も積極的に取り組む人

4 保育者になるための資質と適正を備え、子どもの成長に関わりた

5 子どもを取り巻く今日的課題に広範な関心を持ち、解決に向けて新しい可能性を探求したい人

II カリキュラムポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

本学では、建学の精神・教育理念に即した学生を養成することを基本とし、科の目的である社会のニーズに応えられる資質の高い幼稚園教諭、及び保育士の養成を行うために、以下のような方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成します。

・確かな専門的知識と研究意欲を育てるカリキュラムを設定します。

・保育の実践力と即応力を育てるカリキュラムを設定します。

・豊かな人間性と社会性を育てるカリキュラムを設定します。

カリキュラムを設定します。

・個々の学生の得意な分野を伸ばし魅力ある保育者を育てるカリキュラムを設定します。

III デイプロマポリシー

(学位授与の方針)

本学では、建学の精神・教育理念に即し、かつ所定の単位を修得した学生に、卒業が認定されます。

・子どもの教育や保育について、専門的知識と研究する力を備えた学生。

・社会のニーズに対応できる教養と社会性を備え、教育、保育実践力を発揮できる学生。

・資質の高い専門家としての人格を備え、求められる役割を理解し、最大限に努力することができる学生。

これらの【3つのポリシー】を実践するためにカリキュラム編成を見直し、教育内容の一層の充実を図っています。例えば、従来の「総合演習」を拡充発展させ、1年後期から2年前期の1年間に渡り「課題研究A・B」を設定して、専任教員一人当たり16名以下の学生を指導する少人数体制で、学生一人ひとりが自分の興味・関心のあるテーマについて研究する姿勢や研究方法についての実践的学びを行えるようにしました。また、「課題研究」で

まとめた研究成果を「保育研究発表会」や学園祭、幼児教育科誌「桐の花」で発表し、学生の学習意欲の向上を図るとともに学修成果の見える化に努めています。さらに、保育

の実践力と即応力を育てるために、新校舎1階に「保育実習室」を設け、現場の保育室をイメージした空間で学生が子どもへの指導方法を実践的に学ぶことができるようになり、附属幼稚園や近隣の幼稚園・保育所と連携し、保育現場を訪問して子どもと保育者の関わりを学ぶ学外授業を実施しています。

特色ある教育活動

文部科学省・厚生労働省からの指導により、幼稚園教諭免許状及び保育士資格取得のための教科・内容が多様化し、また授業実施回数・厳格化も強く求められていることもあり、2年間という短い修養期限である短期大学において特色ある教育活動を展開することはますます困難になっています。

本学では、1年次4月に1泊2日の学外研修、6月に日帰りの学外研修(観劇・施設見学等)を実施して、学生が実社会での社会生活のルールやマナーを身に付けたり、幼児教育の専門以外に広い分野に興味・関

年	主な出来事
平成 20 年	●財団法人短期大学基準協会の認証評価で適格認定を受ける ●言語文化コミュニケーション科の男女共学化実施 ●幼児教育科（入学定員 180 名）定員変更
平成 21 年	●専攻科幼児教育専攻廃止 ●ビジネス心理科募集停止
平成 22 年	●ビジネス心理科廃止 ●幼児教育科「イギリス研修旅行」始まる
平成 24 年	●言語文化コミュニケーション科募集停止
平成 25 年	●木内秀樹学長就任 ●言語文化コミュニケーション科廃止
平成 27 年	●一般財団法人短期大学基準協会の認証評価で適格認定を受ける ●幼児教育科「楷の木ホール」で卒業式挙行 ●新校舎（3 号館・4 号館・体育館）落成披露 ●短期大学同窓会創立 50 周年記念事業挙行 ●短期大学創立 50 周年記念事業挙行



音楽研究発表会（楷の木ホール）



イギリス研修旅行 McMillan Early Childhood Center

心を持つことなどを目指しています。さらに、保育研究発表会・音楽研究発表会などを通して、学内外で学んだことや研究したことを大勢の人の前で発表する機会を設け、できるだけ多くの学生が人前で分かりやすく伝わりやすい発表・プレゼンテーションができるように指導しています。

また、就職オリエンテーション・実習オリエンテーション・実習特別講座等に幼稚園や保育所の園長先生・現場で活躍している先輩・優れた保育技術をもつ外部講師等を招き、学内だけではなく多くの人材に出会い良質の刺激を受ける場を設け、社会に出てからも活用できる人間力や技能を磨く機会を積極的に取り入れています。

学内での授業を核にした地道な取り組みとこのような企画が、学生の学習意欲の向上と学修成果の向上につながり、教育・保育関係への就職率100%という実績、きめ細やかな指導を行う短期大学という評価に貢献していると自負しています。

さらに、保育職は、常に今日的課題に向けて研究を続け人間力を磨き続ける必要があるため、卒業後も学ぶための場「保育研修会」を年1回幼稚園・保育所等で働く保育者を

対象に、現場の要請に応じたテーマを無料で開催しています。毎年、卒業生に限らず多くの保育者の参加を得て、本研修会はリカレント教育から現職教育へと発展的展開を見せています。

今後の課題と展望

本学が社会に貢献していくために以下の項目に取り組んでいます。①新たに創設される保育教諭免許の取得に向けた、カリキュラムの編成準備、②附属園との連携を図るために、人材交流の活性化を推進、③リカレント教育に力を注ぎ、内外共に本学の教育推進、④グローバル教育の推進として、諸外国の実態や方法を学修できる比較児童文化演習の充実、⑤再就職支援事業の推進として、同窓会と連携して資格や免許を持つ卒業生が再就職する機会の整備。

保育者不足が深刻になっている昨今の状況の中で、資質の高い幼稚園教諭及び保育士の養成を目指す本学の責務は重要性を増しています。これらの取り組みをはじめ、近隣の幼稚園・保育所との連携をさらに深めて、若い意欲溢れる魅力的な保育者を世の中に送り出していく所存です。

東京成徳大学中学校・高等学校 10年間の変革と今後の展望

中高一貫部 副校長

中村雅一

平成18年3月に卒業した3期生（この学年より高校からの入学生が混ざらない完全中高一貫校となる）から、平成27年3月卒業の12期生まで、この10年間で1255名の卒業生を送り出しました。少子化や経済不況のなか、生徒確保そして、男女共学中高一貫校として広く認知されるべく様々な取り組みが導入されました。

1つ目は、6ヶ年の時間を生かし現役で大学合格できるための学習指導と進路指導です。カリキュラムを微調整しながら中学段階では、補習演習など面倒見よく厳しくも温かく指導していき、高校段階では勉強合宿や長期休暇中の大学入試に向けた講習など、部活動の指導も同様ですが、まさに休日返上で取り組み「伸ばす教育」の実践を重ねた10年間でした。入口と出口の6年間の差で勝負する学校という意識で、生徒の学力向上のための教員の努力・

工夫があったからこそと思います。

2つ目は、ニュージブランド学期留学を柱とした4つの技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を習得させる新しい英語教育の取り組みです。この留学制度は平成27年度3年生で13回目となりますが、この10年間で400名を超える生徒が参加しています。中学3年次3学期3か月間の留学で、ホームステイしながら現地の学校の学籍を得て通学する留学です。

また、ネイティブスピーカーを専任教員として迎え、中学1年次よりオールイングリッシュの授業も展開しています。大学入試対策はもちろんです。グローバルな時代を生きていく生徒たちの大事なスキルとなります。

3つ目は、「自分を深める学習」中高一貫バージョンです。高等部での実践から2年遅れのスタートで、特に中学段階での心の教育の核となつていくものです。

日本の教育の本質が変化していき、更に新しい教育の実践が必要となる次の10年間のスタートです。

高等部 副校長

野中修也

高等部の10年間を振り返ってみます。「文」部「両道」「自分を深める学習」「進学」の3つを教育の柱に据え、その実践を進化させてきました。

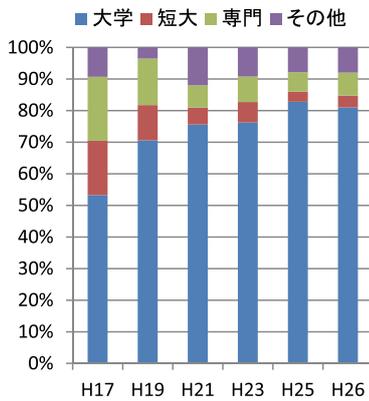
特記すべきは野球の「全校応援」と文芸部の「読書甲子園2年連続優秀賞」です。仲間との絆を大切にす本校の方針は生徒に浸透し、甲子園予選一回戦から勝ち負けを度外視して声も枯らさんばかりの大声援を選手に送り、そして選手から勇気と夢を追うことの素晴らしさを受け取ります。この活動が12年続いています。「自分を深める学習」の実践版ともいえるこの応援活動は、生徒に「つながり・共感・連帯」の精神を醸成します。文芸部は読書感想の優秀賞を2年連続で受賞しています。さらに天文部・吹奏楽部・書道部・自然科学部・放送部等がこの10年で目覚ましい進歩を遂げています。文化部の活躍が目立った10年間です。

平成17年、進学選抜コースを創設し、私立上位校を目指すカリキュラムを立ち上げました。さらに平成26年には特進Sクラスを新設し最難関国立大を目指す集団を作り出しました。この10年間の進学実績は目覚ましい発展を遂げ、東大・一橋・京大・阪大・東工大・早大・慶応大などの最難関大にも進学者を多数輩出しました。

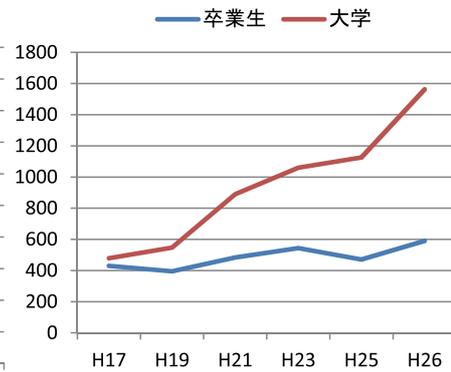
さらに今年度「英語教育の拠点・DDR」を設置、ネイティブが常駐し英語コミュニケーション・各種英語検定・英語受験情報・留学・スピーチコンテストなどを指導しています。また昨年より「SクラスCTP授業」を設け、これは今後の社会で、より必要とされる「思考力・判断力・表現力」を養うべくアクティブな手法を用いた内容です。今後の本校のアクティブラーニング推進の要となる授業です。また平成28年度から45分×7時間授業を展開する予定です。このねらいは生徒の高い進学ニーズ・グローバル社会に必要な能力育成に配慮することにあります。

今後、高等部の進化はまだまだ続いていきます。

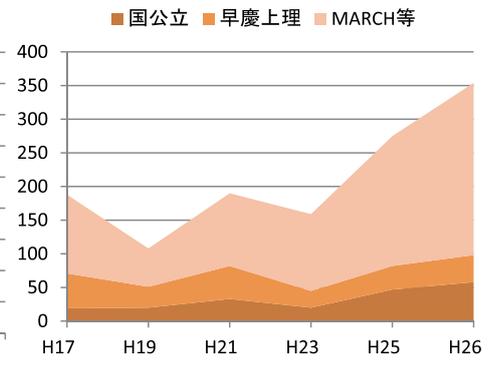
年	主な出来事
平成 17 年	●創立 80 周年記念講演会・芸術鑑賞会開催
平成 18 年	●共学後の生徒初の卒業
平成 19 年	●教育課程の変更（高校：進学選抜コース新設）
平成 20 年	●独立行政法人国際交流基金招聘の 25 ヶ国の教員団が中高一貫部を視察 ●高等部グラウンドを人工芝グラウンドに改修
平成 21 年	●教育課程の変更（中学・高校：授業時間の充実） ●高等部 1・2 号館耐震工事了
平成 22 年	●旧清至中学校跡地を北区より借用（南グラブ） ●高等部 3 号館耐震工事了 ●ニュージラボの生徒が中高一貫部で学校体験
平成 24 年	●教育課程の変更（高校：理数移行措置） ●高等部第 5 体育館竣工 ●ネイティブスピーカーによる英語の授業を導入
平成 25 年	●沖縄修学旅行の開始 ●教育課程の変更（高校：学習指導要領改訂） ●弓道場耐震改築工事了
平成 26 年	●教育課程の変更（中学：英語カリキュラムの充実） ●ベトナムの中学生が中高一貫部を訪問
平成 27 年	●英語教育の拠点・DDR 設置 ●創立 90 周年を祝う会開催



▲①大学進学率の推移(隔年)



▲②大学合格者数の推移(隔年)



▲③主な大学の合格者数(隔年)

学習・進路指導
進路指導のあらまし
 平成17年度は、(第6次改訂)学習指導要領での大学入試が実施された年でした。いわゆる「ゆとり教育」初年度入試です。公立学校では5日制が実施され、学習内容も従前より大幅に縮小削減されています。しかし、大学入試の内容や企業等が求められる学生の能力観に変化がないことや、この年に本校が完全に均等になるなどを勘案し、進路指導は「出口指導」のさらなる強化を一つの方針としました。そこから、具体的には国公立と難関私大合わせて50件以上の合格、10年後までには大学進学率80%以上の達成などを今後の数値目標としました。

また、もう一つの方針として、建学の精神に基づく全人教育の一貫としての進路指導を位置づけました。とくに「出口指導」という「受験のためだけの指導」という技術的、表層的な指導に陥りやすく、それを防ぐためにも進路指導の本義に則った計画を立て、教員一人ひとりがそのことを自覚できるように心がけました。この考え方は、ここ数年頻繁に聞かれる「キャリア教育」とほぼ同義といつてよく、生徒

の受験校の多様化を認めるとともに、入学後の学力担保という意味から、推薦から一般へと受験のシフトの方向性を生むことにもなりました。

この10年を総括すると、基本的には進路指導の方向性は間違っていないと考えられます。大学進学率は平成25年度から80%以上となり(①参照)、大学合格数も平成17年の479件から、平成26年度には1563件と3倍になりました(②参照)。つまり、充分に力をつけて大学へ進学する一般受験を基盤とした進学態勢が定着してきたと思えます。また、当初の国公立への数値目標は、平成24年度が54件、26年度には58件の合格を出し、ほぼ達成しました(③参照)。今後は、平成27年度に全面实施された新学習指導要領を踏まえ、国際化に対応できる人材を養う視点を取り入れた進路指導を展開していきたいと考えています。

中高一貫部の学習指導
 平成27年度で中高一貫は18年を経過しました。その間、1・2学年を理解徹底期、3・4学年を自信獲得期、5・6学年を発展・受験対策期と位置づけ、中高6年間での進学

指導を強く意識したカリキュラムとしてきました。

また、グローバル時代を生きる生徒の育成にも努めてきました。平成15年度より導入したニュージラード学期留学は、毎年中学3年の3学期に3か月間実施しています。さらに、平成24年度からはネイティブによるオールイングリッシュの授業もスタートしました。

高等部の学習指導

平成17年度に共学1期生が卒業した段階では、まだ男子の比率も低く、女子校としての進学・学習傾向が色濃く残っていました。そこで、受験学力の効率的な育成という観点からもカリキュラムの整理を行い、進学コース6類型の廃止、進学選抜コースの新設を行い、平成19年度に現在の3コース（特別進学、進学選抜、進学）体制に移行しました。さらに、平成26年度には特別進学コース内に最難関国立大学を目指すSクラスを設置し、より高いレベルの学習指導を展開しています。

部活動

平成17年度、中学、高校ともに女子バスケットボール部が全国制覇を果たしました。高校バスケットは実に

21年ぶりでした。続いて、高校バトントワリング部も6年ぶりに全国大会でグランプリ（優勝）を勝ち取り、女子の活躍が創立80周年に華を添えました。翌年度も中学バスケットが全国優勝。ラクロス部は平成19年度、U19世界大会で3名が活躍しました。

一方、高校男子も活発な活動を始めました。平成19年度、サッカー部は全国大会東京都予選で準決勝まで駒を進めました。平成27年度、硬式野球部は東京大会で初のベスト16となりました。これまで、毎年高校1、2年生を中心とした全校応援（野球）を続け、東京成徳生としての一体感を醸成してきました。また、男子バスケットボール部も新人戦都ベスト16（11月8日現在）となり、今後の活躍が期待されます。

さらに、文化部に入部する生徒も、文『部』両道を掲げる中で年々増加しました。高校吹奏楽部は、東京都コンクールに毎年出場するとともに、定期演奏会を開催し、平成26年度には50回目の演奏会を「北とぴあ」で迎えました。同年度、文芸部は、「どくしよ甲子園」に2年連続で優秀賞を受賞。全国ビブリオバトル決勝大会にも出場を果たしました。



平成17年度 全国中学校大会 優勝（中学女子バスケット部）



平成17年度 全国高校総体 優勝（高校女子バスケット部）



平成17年度 全国大会 優勝（高校バトントワリング部）



平成19年度 全国大会 東京都3位（高校サッカー部）



平成 26 年度 定期演奏会 (高校吹奏楽部)



平成 27 年度 東東京大会 ベスト 16 (高校硬式野球部)



自分深めの一環として実施される戸隠校外学習



「昨日の私と今日の私は同じ？」と問いかける野中副校長

オリジナル学習

「自分を深める学習」

学習のねらい

平成15年度から高校1、2年生の1時間を必修とし開始しました。「私」という存在がこの世界内にどのように「在る」のか？つまり、「自分とは何か」を考え、感じ、それを基にこれからの人生をどのように生きるべきかを見つめていこうとするものです。己の内面に向かう哲学的思考、友人やグループとの会話・討論を通して他者の意見を受け入れる方法、自分の意見・感じたことを文章にする方法、映像を通して自分の感性に訴えかけるものと向き合う方法、その他あらゆる角度から「自己存在」の在り方を見つめます。

その作業の中で「何らかの気づき」を持つてほしい、それはたとえ言語化できなくても、心に何らかの「跡」を残してほしいと願っています。答えの出にくい、あるいは答えなどないかもしれない難問に向き合うことは「知的耐性」が要求されます。しかし、その課題に向き合うことは、明らかに自己を成長させます。たとえば、卒業までに答えが出ななくとも、「自分の生き方」ビッグロック」の尻尾くらいは捕まえるこ

とが出来ているのではないかと、これまでの授業実践で感じています。

授業の内容

「命について」「幸せについて」「働くということ」「変化ということ」「自分はあるのか？」「どう生きる？」というテーマに見合う教材を生徒に提示し、自己内対話、友人との対話を通して深くそのテーマの本質に触れていきます。その中身が生徒の実感を伴って内面化すれば、生涯のテーマとなっていくます。それが本校の「自分を深める学習」の望むところです。

「私たちはこの世に生きているが、同時にあらゆるもののおかげで生かされていること」を感じてほしいと願っています。決して独立実体的に自分が存在していないこと、むしろあらゆるものとの関係性を持つてこそ自己が現れてくることを知るといふ願いがこの学習にあります。しかし、それを教条的に生徒に教え込むのではなく、生徒自身が現在抱えている諸問題を通してこのような認識を自ずと深めてほしいと願っています。その認識は建学の精神とも合致し、これからも「自分を深める学習」の方法を先鋭化して生徒と向き合っていきたいです。

東京成徳大学深谷中学校・高等学校 建学の精神で人を磨く

校長 神田 正

はじめに

～これまでと、この10年～

本校は、日米初のテレビ中継が成功した年の昭和38年4月に女子高校として開校しました。初年度に入学した生徒は28名であったが、今年創立52年目に当たり、今年3月までの卒業生総数は13,500名を超えます。

この10年間の大きな変革として、平成25年、創立50周年記念式典を挙行し、同年4月には高校と同じ敷地の中に中学校を開校しました。

中学校では、初年度新入生20名を迎え、今年度に三学年が揃い、全年合わせて生徒数50名となり、同じ敷地の中で、中高の生徒が仲良く学校生活を送っています。

この10年間を振り返ると、10年前の平成17年から平成20年度までの4年間は大澤健先生が校長でした。大澤校長は平成13年に赴任して以来、7コース制レインボープランに基づき体制を整備し、生徒一人ひとりの適性や希望に応じた進路指導

に取り組みました。

平成21年からの5年間は、大谷幸男先生が校長として、コース整備を進め、コース制を4系列に整備する中で、保育系等も男女共学とし、本校を完全共学化としました。将来の深谷校の発展・充実のため、中学校を開校させたのも大谷先生の校長在任時です。

「成徳」で宝を磨く

「徳を成す人間の育成」は、将来社会人として他者からの強い信頼、高い評価を得られる人格の完成や生きる力の涵養にも大きく寄与し、本校では、「成徳」教育の推進に毎日励んでいます。

毎朝のシヨートホームルームの開始前に、中学生は朝読書、高校生はコース毎に、新聞コラムの筆写や英単語等の練習・小テスト等の学習を静かに自主的に取り組みます。本校の朝は、こうして心落ち着く静寂の中で始まるのです。

毎日、終礼時には、放送委員会の



中学校新校舎（手前左）



神田校長の講話



創立50周年記念祝賀会



創立50周年記念式典

年	主な出来事
平成 17 年	●レインボープラン（7コース制）スタート [特進選抜コース・特進コース・進学選抜コース・進学コース・保育進学コース・福祉進学コース・総合進学コース]
平成 18 年	●食堂のテーブルと椅子をリニューアル
平成 19 年	●オープンテラス完成 ●校舎耐震工事完了
平成 20 年	●福祉進学コースと総合進学コースの統合 ●制服が「モリハナエ」ブランドから「OLIVE des OLIVE」ブランドへ
平成 21 年	●大谷幸男校長就任 ●高校 2 年生、劇団四季作品の観劇スタート
平成 22 年	●高校 1 年生の校外学習が戸隠から木島平へ
平成 23 年	●進学コースと保育進学コースの統合
平成 24 年	●進学コースと総合進学コースの統合・再編 [文系、理系、保育・総合系] ●完全共学化スタート（進学コース保育・総合系に男子生徒を受け入れる）
平成 25 年	●東京成徳大学深谷中学校開校 ●創立 50 周年記念式典挙行
平成 26 年	●神田正校長就任
平成 27 年	●中学校 3 年生海外修学旅行（マレーシア、シンガポール）



体育祭



中学校第 1 回入学式

生徒が次のように放送します。

「ただ今から黙想の時間を始めます。では、今日一日を振り返り、反省してみてください。静かに目を閉じ黙想を始めてください…」

成長途上の生徒には、生徒本人が気付いていない宝（＝素晴らしい資質・能力）が必ずあります。

授業や学校行事、部活動など様々な場面で、毎日、建学の精神のもと、生徒の中で眠っているその宝を徹底的に磨いていくのが教職員の役割です。

これからの方向性

①グローバル人材と自立する社会人
「成徳」は、今後も変わることのない不易な理念です。同時に、今我が国に求められているのは、国際的視野を持つグローバルな人材であります。加えて、変化し続ける社会に自分の力で考え、選択し、行動できる自立する社会人と考えられます。

そのために、確かな学力と高い語学力を身につけること、特に英語の四技能をバランスよく習得することが大切であり、また、相手の意見に真摯に耳を傾けつつ、自分の考えや意見をしっかりと述べられる力、つまりコミュニケーション能力も大切になります。



オーストラリア修学旅行



新入生校外学習



クラブ活動の活躍（サッカー部）



体育祭に地域の幼稚園を招いて



地域のお祭りに参加（チアダンス部）



中学イングリッシュキャンプ

この育成には、授業の改善は無論だが、生徒の実体験も重視することも大切で、例えば、学校行事や部活動は、学校生活に潤いを与えるだけでなく、生徒が、時には失敗からも学ぶ大切な実体験ともなるからです。

② アクティブ・ラーニング

学力は「学んだ力（＝習得した知識・技能の量）」も重要であるが、これからも変化し続ける社会においては、「学ぶ力（自ら考え、説明する力、互いに協力して学ぶ力）」の育成も重要です。

生徒の自ら学ぶ主体性と、級友など他者との協働性を重視した学習活動の仕掛けを一般的にアクティブ・ラーニング（能動的な学習活動）と呼びます。学びの方法や過程に焦点を当てた学習活動と言え、生徒の意欲喚起の工夫として今後はアクティブ・ラーニングの手法が重要になり、学校全体として推進していきたいと考えています。

生徒自らが自覚し、自分で勉強し始める時、学力の伸長は極めて大きくなるでしょう。

現状と今後

① 新コースの整備

高校からの入学生は平成27年度現在4つのコースで学んでいます

平成 27 年度保護者満足度の調査 表 2

項目	%
1 教職員の指導力	94.4
2 教職員の熱意・使命感	95.2
3 教職員の面倒見の良さ	96.8
4 生徒指導の取組	89.7
5 部活動の取組	82.5
6 進路指導の取組	86.5
7 PTA 活動の取組	88.9
8 施設や設備	87.3

平成 27 年度新入生・保護者入学動機調査 表 3

	順	項目	%
生徒	1	部活動	70.1
	2	校風（面倒見の良さ）	54.8
	3	学校行事（文化祭、体育祭など）	50.5
	4	学校行事（修学旅行）	50.0
	5	進路に合わせたコース編成	46.3
	6	校風（おおらかな徳操）	40.4
保護者	1	進路に合わせたコース編成	87.7
	2	校風（面倒見の良さ）	86.4
	3	進学実績・指導	77.3
	4	校風（おおらかな徳操）	73.4
	5	部活動	54.5
	5	本校の生徒	54.5

平成 28 年度 高等学校のコース編成 表 1

コース名	進路選択	コースの特色
特進 S コース 40 名	文系（国公立文系・私立文系）	7 時限授業や土曜日授業、特別講習等を実施し、難関大学への現役合格を目指す。
	理系（国公立理系・私立理系）	
進学 選抜コース 80 名	文系	7 時限目を講習と部活動との選択とし、勉強と部活動に励み、一般入試、推薦入試で大学への現役合格を目指す。
	理系	
進学コース 160 名	文系	6 時限目終了後は部活動等に励み、大学等の進学は AO 入試、推薦入試で現役合格を目指す。
	文理系	
	保育系	
中高一貫 コース 70 名	文系（国公立文系・私立文系）	中学校からの内進生が、7 時限授業や土曜日授業、特別講習等により、難関大学への現役合格を目指す。
	理系（国公立理系・私立理系）	

また、「新入生・保護者入学動機調査」（表 3）も、新入生とその保護者は、本校に入学した理由として、本校の面倒見教育の校風を高く評価しています。これは、本校の教職員がこれまで培い、積み上げてきたきめ細やかな面倒見教育の評価の高さで、本校は、これからも、こ

が、平成 28 年度から 3 コースとします。ただし、深谷中学校から内部進学者が中高一貫コースに進むので、深谷高校としてのコースは合計 4 つとなり、内容が変わることになります。（表 1 参照）

②本校の良さを生かす
本校の生徒と教職員の特徴を表す表現が 2 つあります。

1 つ目「笑顔・挨拶・成徳」
外からお見えになるお客様の方々に対して、本校の生徒は実に気持ちの良い笑顔と挨拶で歓迎します。これは、男女の生徒を問わず本校の良い伝統となっています。本校生徒の素性の良い性格と優しさ、そして相手の立場を考える特質であります。

2 つ目「面倒見教育の成徳」
これは、毎年実施している「保護者満足度の調査」（表 2）にも良く表れている本校教職員の誇れる特長です。



小島深谷市長を囲んで

終わりに
公立校を公共水道に例えれば、私学は井戸に例えられます。本校は今後も「成徳」という建学の精神が光る井戸水を地域に供給していきたいと強く思っています。

これらの本校の強みと良さを伸ばす中で実践を進めていきたいと考えています。



ライオンキング 2014 Seitoku Version



作品展



日曜日参観

東京成徳短期大学附属幼稚園
子どもの可能性は無量大

教頭 梶山 久美子

桜の花咲く4月、新しい制服を身につけ、保護者の方としっかり手を握り、少し不安そうな表情で幼稚園の門をくぐり、入園式を迎える子ども達。この光景は毎年春の行事となっています。

幼稚園は、平成25年に60周年を迎えました。60年と言えば長い年月の一つの節目でもあります。幼児教育が長期に継続できましたのも、充実した教育施設と環境の中、園長先生はじめ、園関係者の方々のご指導と教職員の努力、保護者のご協力とあたたかいご支援があつてこそ成し遂げられたものと思います。

幼稚園も平成27年迄で12,664名の卒園生が巣立ち、今では三世代の卒園生もおり歴史の重みを感じさせられます。

幼児期には、遊びを通して沢山のことを学びます。人の成長発達とは、個人差や生活環境の相違があるなか、たとえ同じ年齢のお子さんであっても発達のかなたの姿はそれぞれ違います。子ども達は生まれてから、家庭の中であたたかな親の愛情いっぱい、すこやかに育てられ

てきました。そして初めての集団生活という社会への第一歩は、幼稚園の出会いから始まります。先生や大勢の仲間と過ごす中で、家庭では経験することの出来ない事を体験し、人との関わりを身につけ、個性を認め合い、尊重する気持ち、人としての土台作りである「学びの基礎」をしっかり幼稚園時代に築きあげることが大切と考えます。そのためにも、保育者が、一人ひとりの個性を大切に、愛情をもって子ども達と関わり、これまでの経験を生かして、成果と反省を織り交ぜながら、日々努力し、真剣に取り組まねばなりません。

これからのグローバル社会を生きていく子ども達にとって「個々の自立」がとても重要と言われます。そのために必要なことは「自ら考え、判断し、問題を解決する力」です。幼稚園では、さまざまな体験を通して、子ども達の潜在能力を引出し、未来への自信に繋がる保育を目指します。

今年度、特に取り組んでいるカリキュラムを紹介します。

年	主な出来事
平成 17 年	●土曜日参観「年長サンドイッチ作り」開始 ●赤羽自然公園園外保育開始
平成 18 年	●木内秀樹園長就任 ●特別授業英会話 週2回導入 ●赤羽自然公園（縦割り保育・カレーパーティー） ●年長卒園遠足（キッズニア東京）実施
平成 19 年	●お母さんコーラス「りんごの木」活動を本格化 ●母親ゼミ発足
平成 20 年	●秋季大運動会 年長組マスゲーム・成徳オリジナルバージョン「パイレーツ・オブ・カリビアン」実施 ●お母さんサークル「トールペイント」発足
平成 21 年	●秋季大運動会 年長組マスゲーム・成徳オリジナルバージョン「ライオンキング」実施
平成 22 年	●お母さんサークル「フラワーアレンジメント」発足 ●幼稚園園舎B棟 耐震補強工事完了 ●事務室リニューアル
平成 23 年	●年少組春の遠足（苺狩り）実施 ●幼稚園でお泊まり保育実施（年長組） ●起震車体験実施
平成 25 年	●花まる学習会開始 ●幼稚園創立60周年記念観劇会 演目「ピーターパン」
平成 26 年	●延長保育くまさんクラブ 早朝保育開始 ●音楽教室開始
平成 27 年	●お母さんコーラス「りんごの木」10周年記念コンサート



異文化コミュニケーション



お母さんコーラス「りんごの木」



お泊り保育

△フリーデー▽

各学年、週1日は登園から降園まで自由に活動します。子ども達は朝登園すると、元氣いっぱい園庭に駆け出し、自分で好きな遊びを見つけ活動する中、自主性が育ち友達との輪が広がります。特に隣接した広いグラウンドでは、遊具も何もない場所で、ゼロから遊びを生み出す発想力を育てます。そして身近な植物や生き物を観察し、さまざまなことに気づく感性と豊かな心が養われます。

△異文化コミュニケーション▽

子ども達は、生活を通して、様々なことを学んでいます。現在幼稚園には11ヶ国の保護者の方がいらっしゃいます。日本以外の国にも興味が持てるよう、保護者の方にご協力をいただき、異文化に触れる目的でお話し会を開いています。オーストラリア・ドイツ・イギリス・ルーマニア等の、それぞれの国の言葉でジェスチャーを交えながら、簡単な挨拶をしたり、有名な食べ物や建物を映像でみます。子ども達の関心度はとても高く、笑顔で歓声をあげながら楽しく活動しています。これからのグローバル社会を担っていく子ども達にとつて、世界を知るとい

うことは、とても貴重な体験であり、より外国に興味を持てるよう沢山の機会を設けています。教育は信頼から始まります。園では60年という良き伝統と今の社会状況に合わせたニーズを素早く保育に取り入れ、広い視野を持つ、幼児共育に邁進していきます。人は一人では生きていかれず、周りの沢山の人に育てられます。常に感謝の気持ちを忘れず、自分自身の可能性を信じて、何事にも努力し、一生懸命頑張る「強い心」と他人に対する「思いやり」をもてるようになるために、沢山の経験の中から、嬉しいことや悲しいこと、様々な感動を体験し、豊かな心を育てたいと思います。

今後の社会を担う子ども達が、幼児期の教育と心の優しさなどを充分発揮し、近い将来活躍してくれることを期待します。

また一世紀以上継続しての総合教育の実践と本幼稚園がますます発展することを願っています。



園庭に集った園児たち

東京成徳短期大学附属第二幼稚園
保護者・地域に信頼される幼稚園

園長
星野
薫



ちびっこスイミング



ちびっこ英会話

本園は、さいたま新都心の高層ビルが立ち並び、鉄道網も整備され、目覚ましい発展を遂げ、環境が変化してきている町の一画にあります。現代の幼児教育環境も大きく変化していく中で、本幼稚園は、改めて、保護者・地域に信頼される幼稚園を目指して、子ども達が「あしたもこようね。」と思える楽しい園にするために、今迄のよき伝統を引き継ぎ、新たな目標をもって、努力しています。

創意ある教育課程の編成を工夫していく

具体的には、本園として特徴的な体操教室、英会話教室、スイミングスクールでの活動など、園児の興味・関心に会った活動を取り入れ、継続して行ってきました。また、運動会、作品展、発表会等の行事を園児の目線に合わせた内容で取り組ませ、これからの各種行事を通して、一人ひとりの成長を見届けることが大切であると考えて実践しています。

年	主な出来事
平成 17 年	●近隣中学校で運動会開催 ●創立 30 周年式典挙行
平成 18 年	●テレビドアホン設置
平成 20 年	●加々美健一園長就任
平成 23 年	●英会話教室を年中・年長に導入
平成 25 年	●星野薫園長就任
平成 26 年	●給食開始 月・金 埼玉給食センターより ●玄関にスロープ設置
平成 27 年	●園庭にゴムチップによる通路設置 ●ホームページリニューアル、ウェブページ開設 ●緊急メール送信開始



成徳まつり



わくわく音楽広場



お餅つき会



異年齢交流

これからも総合学園ならではの活動を取り入れていく

そのためには、①大学・短期大学と連携した「わくわく広場」やその後に行う研修会を継続して実施していくこと、②県・市・地区で行っている実践的な研修会に積極的に参加して保育者としての力量を向上させていくこと、③附属幼稚園との各種行事における交流を図り、情報交換を図ること、も大切であると考えています。

地域保護者との連携を図り、特色ある活動を推進

今まで、①近隣小・中学校と交流を図り、連携した活動を行ってきました。また、②与野ハウス（幼稚園のあるマンション）や、地域住民との交流を図りながら温かな人間関係を醸成していくことも長きにわたって行ってきましたが、それらの活動をさらに進化・向上させていくことも大切です。

以上のように総合学園としての特徴を生かしながら、子どもの良さを引き出す教育課程を編成し、地域・保護者に信頼される幼稚園を目指して、これからもより一層教育成果を高める努力を続けてまいります。

学校法人 東京成徳学園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp	
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp	
十条台キャンパス		電話 03-3908-4530
八千代キャンパス		電話 047-488-7111
東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-3927-4116
東京成徳短期大学	http://www.tsu.ac.jp	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学校・高等学校		
中高一貫部	http://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	http://tsfj.jp	電話 048-573-1784
高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind	電話 048-854-2151
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383